



オリンピックに学ぶ研究と教育

長崎大学の岸川直哉先生よりバトンを引き継ぎました星薬科大学の伊藤里恵です。岸川先生とは、学会活動を通じて知り合って以来、ご指導頂いております。私も研究室のグループが学会で発表したときなどは、非常に的確な質問や丁寧なご助言を頂き、先生の教育や研究に取り組む前向きな姿勢に多くを学ばせて頂いております。また、岸川先生の人懐っこい笑顔にすっかり大ファンになっています。

この原稿は12月号に掲載される予定ですが、執筆している今はロンドン五輪2012閉会式の余韻が残る8月中旬。オリンピック選手をライブで応援するには（仕事もあるので、ロンドンには行けません）ロンドンとの時差に打ち勝つ必要がありました。W杯から、にわか『なでしこファン』（女子サッカー）になった私は、朝4時頃まで試合を観戦し、そこから6時までの束の間の睡眠を強いられる？ことになりました。大型ビジョンを見ながら大勢の方と一緒に、（ビール片手で）応援できれば良かったのですが、なかなかそうもいかず、自宅一人、冷茶を片手に「いけ、突っ走れ！」「ナイスパス！」「よっしゃあ、よく止めた！」と夢中で観戦しました。特に眠気で辛かったのは、決勝戦の朝3時45分のキックオフ。しかし、眠気を吹き飛ばす、熱い試合でした。残念ながら金メダルは逃してしまいましたが、「後悔なくやりきったし、走り切った。」という澤選手の言葉と、表彰式での選手たちの肩組み行列入場を見て、応援していた私もスッキリした気分になりました。『なでしこ』達のようにメダルを首に下げる選手や入賞する選手がいる一方で、「結果を残せなくて…」と目頭を熱くする選手がいます。おそらく多くの時間を練習に費やし、ようやく掴んだ五輪日本代表の切符。日本を代表する選手になれたことだけでも称賛に値しますが、五輪でアスリートの言う『結果』とは、輝くメダルや記録だらうと考えると、『結果』を出すのは大変だなあと実感します。

そして…少し考えてみました。薬科大学で薬品分析化学教室に籍を置く大学人として、『結果』とはなんだろうか。もちろん、その結果には、オリンピックのように人を感動させ、励まし、笑顔にするパワーがなくてはいけないとなると、少し難しいです。教育の面から言えば、おそらく薬剤師国家試験の合格率が一つの『結果』でしょう。何より数字としての成果は、評価がしやすいですから。試験に合格した学生の笑顔は嬉しい限りで、

社会で医療人としてヒトの命に係る仕事をしていると思うと誇りに思います。他方、研究の面から言えば、と考えて頭を抱えました。自分の研究が本当に『人を笑顔にして』いるのか？『人の役に立って』いるのか？ 当研究室の中澤裕之教授は、「道楽でやっているわけじゃないのだから、結果を出せ」と言います。結果=論文です。論文〇報という数字としての結果は、やはり判断しやすいからです。ただ、中澤先生は結果=論文数だけではないことも教えてくださいました。研究成果が社会に還元できるのかということです。中澤先生は、内山 充先生が提唱された『レギュラトリーサイエンス』の概念をお話しされ、研究成果を社会に還元することの大切さを指導してくださいました。例えば、ポリ塩化ビニル(PVC) 製医療機器に広く使用されるDEHPという可塑剤が、脂溶性の高い注射剤や血液中に溶出してくることが分かっており、DEHPは精巣毒性等を有することから、リスク(DEHP暴露)とベネフィット(治療効果)を勘案した医療行為が求められます。私達の研究グループが行ったDEHPに関する研究結果を基に厚生労働省は「医薬品医療用具等安全性情報(第182号:2002年)」を発表し、特に高リスク患者へ適用する場合には、代替品の使用を推奨しています。私自身も一連のDEHPの研究に参画させて頂いていますが、これらの研究成果は、よりリスクの低い医療行為を提供するうえで非常に重要であり、人と社会に真に役に立つ形で提供できるものと期待しています。

『人と力を合わせて』行う研究、『人と社会のために』提供する研究成果、コーチ(監督)に金メダルをかけてあげたかったと『人を想う』選手、国民の声援を力に変えることができたと『人に感謝する』メダリスト。分析化学もオリンピックも、結局のところ、『結果』を出すには、人を想い、人に感謝し、人と力を合わせて、人のために(自分のためにも)努力することが必要なだと、人と人との繋がりの大切さを改めて実感したこの8月に、人から人へ繋げていくリレーエッセイに執筆の機会を頂いたことをとても光栄に思います。

次のリレーエッセイは、色々ご指導を頂いた昭和大学薬学部名誉教授 故前田昌子先生のご紹介で当研究室に研修生として在籍されていた畜産生物科学安全研究所の薄井典子先生にお願いし、ご快諾頂きました。薄井先生お引き受け下さり、ありがとうございました。

[星薬科大学薬品分析化学教室 伊藤里恵]